

令和5年度 栃木支部ユース春山報告

- 1 期日：令和6年3月24日
- 2 場所：会津駒ヶ岳（2132m）
- 3 参加者：渡邊 雄二・後藤 尚・山本 正嘉（ゲスト）3名スキー班
高野 正道・鬼頭 秀夫・仲島 正子・林 裕寿・荒井 理 5名歩行班 計8名
- 4 行動概要

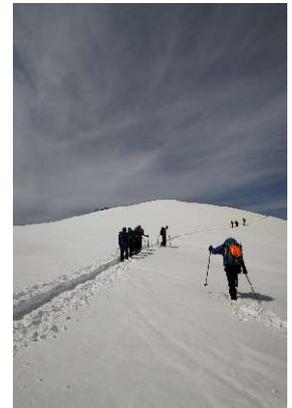
民宿 こまどり（7：40）～駒ヶ岳登山口～駒ヶ岳山頂（12：50～13：20）～駒ヶ岳登山口下山（15：20） 歩行距離 10.4Km 累積標高差 1210m

今回は、前日にコンサーレで行われた講演会の講師である山本正嘉先生をお迎えしての山行となり、講演会終了後、会津駒ヶ岳登山口傍の民宿へ移動した。民宿に到着後して間もなく夕食、しばし山本先生を囲んでの懇親会となった。

翌朝、宿での朝食を済ませると、7時40分に宿を出発する。宿から登山口までは50m程で、そこに車をとめさせていただいたのはありがたい。前日雨がふったせいか、路面は凍結している。登山口である林道に入るとスキー班の3名は早速スキーを装着、歩行班はつぼ足で登山を始める。この時期の会津駒ヶ岳はさすがに多くの人が入っているらしく、トレースがしっかりとしている。10分ほどで林道を外れ、夏道とは違うルートに入ると徐々に傾斜がきつくなる。スキー班は、その斜面でも順調に高度を上げていき、その後を歩行班が続いた。山スキーの経験がない自分は、登りは歩く方が楽な感覚であったが、多少つづら折りの切り替えしで持て余してしまうように見えても、グイグイと進んで行く後ろ姿を見ていると羨ましく思えた。山本先生の指示もあり、早すぎず遅すぎずの安定したペースで前方を進んでいった。標高1200m付近で尾根に出ると、ひたすら山頂めざして上りが続く。天気も良く、まさに春山といった暖かさだ。標高が高くなるにつれ積雪が多くなり、トレース上を歩いても所々で踏み抜くためにワカンを装着。足元は重くなるが、格段に歩きやすくなった。トレースを外れ、敢えてラッセルしてみると、雪が重くてかなり苦勞した。山頂直前は開けた緩い尾根となり、空の高いところに薄雲



【出発時 宿の前で】



【山頂まであと少し】

があるくらいで、景色も良くとても気持ちがいい。山頂に着いた時には顔がすっかり日焼けしていた。休憩の後下山を始めるが、スキー班は板底のシールをはがすと、登ってきたルートとは違う谷へと滑り出す。歩行班は来たルートを下る。下るスピードの差は歴然でかなりの差がつくと思われたが、意外に同じ時間で下山することが出来た。スキー班は藪で苦勞したらしい。

前日の講習会に続いて有意義に春山を楽しむことができた。今回学んだことを、今後の山行に活かしていきたいと思う。

文責 荒井 理



【会津駒ヶ岳山頂にて】